国

令和八年度　看護学部一般選抜　問題用紙

国語

一　次の文章を読んで、後の問に答えなさい。

著作権の都合により、ホームページでは掲載しておりません。

著作権の都合により、ホームページでは
掲載しておりません。

著作権の都合により、ホームページでは
掲載しておりません。

（二〇一三年に出版された中村桂子の『科学者が人間であること』による）

注1　震災　東日本大震災。二〇一一年三月東北地方太平洋沖地震による災害。
注2　原発事故　二〇一一年東日本大震災の際、福島第一原子力発電所で発生した事故。
注3　大森　大森荘蔵（一九二一―一九九七）哲学者。物理学から哲学に転向し科学における哲学的問題の検証を目指した。

問一　二重傍線部①から⑩のカタカナを漢字に直しなさい。

①　シバられ　　②　ウレい　　③　トウコウ　　④　コウホウ　　⑤　ガイして
⑥　アコガれ　　⑦　チサンチショウ　　⑧　キョウじ　　⑨　セキツイ　　⑩　ツチカう

問二　空欄《　1　》《　2　》に入る最も適切な語をそれぞれア～オの中から選び記号を答えなさい。

《1》ア　一方では　　イ　とりわけ　　ウ　かつ　　エ　とまれ　　オ　つまり
《2》ア　しかも　　イ　および　　ウ　にもかかわらず　　エ　要するに　　オ　他方

問三　空欄 A ・ B ・ C に入る適切な語をそれぞれ文中から抜き出して答えなさい。

問四　傍線部(1)「役に立つ」という言葉の内容を具体的に述べている箇所を三十五字以内（**句読点を含む、以下同じ**）で抜き出し、初めの五字を答えなさい。

問五　傍線部(2)「限定された対象」の内容を述べている箇所を抜き出して答えなさい。

問六　傍線部(3)「コミュニケーター」の役割を述べている箇所を問題用紙の3ページ目から抜き出して答えなさい。

問七　傍線部(4)「得てして」に最も近い意味の語を次の中から選びその記号を答えなさい。

ア　連綿と　　イ　またもや　　ウ　取り敢えず　　エ　のべつ　　オ　ややもすれば

問八　傍線部(5)「広く一般の人々が関心を持つようにするには、科学者はどうすればよいでしょうか。」について、筆者はどうすることが大事だと述べていますか。「こと」につながるように十字以内の語句を文中から抜き出して答えなさい。

問九　傍線部(6)「専門家の言葉を受けとめる社会の側も、『言葉の意味をよく考えることの大切さ』を改めて認識しなければなりません。」について、

ア　社会の側がこのように認識しなければならないのは何のためですか。四十五字以内で抜き出し、初めの五字を答えなさい。
イ　また専門家の側がなすべきことを二つ、文中の言葉を使い二十字以上三十字以内で「こと」につながるようにして答えなさい。

問十　傍線部(7)「標榜（ぼう）」の語の意味を次の中から選び、その記号を答えなさい。

ア　目的のために一つに寄せ集めまとめること
イ　心中の考えを包むことなく打ち明けること
ウ　主義・主張などをはっきりと掲げ示すこと
エ　そのことに関わらないで傍らで見ていること
オ　はっきり言わず暗黙のうちに意見や考えを示すこと

問十一　傍線部(8)「人間としての共通基盤」を説明している箇所を文中から五十字以内で抜き出し、初めの五字を答えなさい。

問十二　傍線部(9)の二つの空欄に補うべき語句として最も適切なものを次の中から選び、記号を答えなさい。

ア　（感覚）ではなく（イメージ）
イ　（知識）ではなく（実感）
ウ　（抽象論）ではなく（生活）
エ　（研究）ではなく（成果）
オ　（机上論）ではなく（つながり）

問十三　次のア～オの文章が本文の内容に合致している場合は○、そうでない場合には×を解答欄に答えなさい。

ア　科学が一つの文化として存在するなら、小説や絵や音楽と同じように誰もが接することができ、広く受けとめられるはずである。しかし、現在の制度では科学は論文という一般の人にはなじみのない媒体を通して社会へ出ていくと決められているため、そのままでは理解できず、科学は文化として認識されているとはいいがたい。

イ　現代では科学と科学技術は混同して捉えられ、科学は「役に立つ技術を生むための知識」として、豊かで便利な生活や社会の発展に寄与するよう期待されている。そのためには、大人が科学リテラシーを身につけ、自然や日常生活を大切にして、自然観や人間観を生み出す文化としての科学に関心を向けるのが望ましい。

ウ　楽譜の状態で音楽を理解するのは一般の人には難しいが、演奏家という「専門家」が実際に演奏し、音楽と同時に自分を表現するというステップが入ると聴き手に理解される。こうして音楽が文化として社会に存在するように、科学にも「科学の表現」を人々に届ける「専門家」が科学者とは別に必要である。

エ　科学者は、自分の専門とする研究対象に限らず、「自然科学」という科学本来の姿、すなわち自然に向き合い、自然観、人間観を生み出す努力が必要である。一人の人間としてそして家庭や地域社会の一員として普通に生活する人であることを忘れず、世界観を探ることをも含む研究とすることで、その研究は社会から信頼されるものになる。

オ　一九八〇年代に流行した「バイオテクノロジー」という言葉は独り歩きした結果、製造業から出版社まで多様な業種がその研究に参入する事態となった。しかし「役立つ科学」にならなかったことを考えると、学問を理科系・文科系に分類して特定分野だけの専門教育に集中するという教育を見直すこともまた必要である。

二　次の①～⑤の慣用句の意味をア～クの中から、⑥～⑩の慣用句の意味をケ～タの中から選び、記号を答えなさい。

①油を売る　　②二の足を踏む　　③目から鼻へ抜ける
④琴線に触れる　　⑤気が置けない

ア　気持が落ち着かない
イ　頭の回転が速く判断力に優れる
ウ　ためらって尻込みする
エ　親密で余計な気遣いがいらない
オ　同じ失敗を繰り返す
カ　無駄話をして怠ける
キ　心が深く動かされる
ク　相手の怒りを買ってしまう

⑥手をこまねく（手をこまぬく）　⑦顔から火が出る　⑧木で鼻をくくる
⑨目くじらを立てる　⑩爪に火をともす

ケ　人の欠点を取り立てて非難する
コ　そっけなく不愛想に対応する
サ　怒りの感情をあらわにする
シ　何もしないでただ傍観する
ス　非常に恥ずかしい思いをする
セ　こっそり人を呼び入れる
ソ　出費が予定より多くなる
タ　貧しさゆえに倹約を徹底する